

Tokyo Kasei Press

学校法人渡辺学園 広報誌 なでしこ

VOL.
81
2019.7



02-05 | 特集「ひとの生(Life)を支える学の構築」研究の挑戦

06-09 | 特集 緑苑祭企画「EVEファッションショー」

10-11 | グローバル教育センター 13 | スタートアップセミナー「自主自律」 20-21 | ワークライフバランスin農業女子プロジェクト

22-23 | 附属中学校・高等学校 24-25 | 東京家政大学博物館

26-27 | 東京家政大学入試改革 30 | 理事長コラム

「ひとの生 (Life) を支える学の構築」 研究の挑戦

東京家政大学独自の総合研究プロジェクトは、2018年度後半からその取り組みを開始し、大きな研究テーマとして、「ひとの生 (Life) を支える学の構築」を掲げています。この研究プロジェクトには、

4学科にまたがる研究者約40名が参加しており、子ども期から高齢期まで5つのライフステージに分けて研究しています。

本号では、「ひとの生 (Life) を支える学の構築」研究から、3つの研究を紹介します。



研究紹介 01：子育て期

「子育て家庭の健康を支援する食事作りの提案」

研究者：家政学部栄養学科 赤石記子／加藤和子／海老塚広子
ヒューマンライフ支援センター専門員 三神彩子

p.3

研究紹介 02：壮年期

「香味成分の添加による新たな減塩食の開発 および視覚効果を利用した低カロリー食の開発」

研究者：家政学部栄養学科 佐藤吉朗／澤田めぐみ／峯木眞知子

p.4

研究紹介 03：高齢期

「高齢者用衣料品の風合いと快適性」

研究者：家政学部服飾美術学科 濱田仁美／潮田ひとみ

p.5

子育て家庭の健康を支援する 食事作りの提案

研究者：家政学部栄養学科 ＊赤石記子／加藤和子／海老塚広子
ヒューマンライフ支援センター専門員 三神彩子

*執筆者

研究を立ち上げた理由や背景、共働き家庭の増加、家庭科が男女共修となった世代を対象に

食生活を取り巻く環境は常に変化を続けています。今から約30年前の1980年代後半は共働きよりも専業主婦の家庭が多く、現在は女性の社会進出が増え、共働き家庭の方が多数となりました。食事作りも家事労働の一つで女性が中心に担うことが多い無償の労働でしたが、「家事サービス」の購入と言われる「食の外部化」、そして男性の家事参加が増えています。このような時代の流れを受けて、本研究の対象者は「女性」だけではなく、「男性」も含め、あえて「子育て家庭」を対象にしています。現在の40歳より若い世代は、中学校、高校での家庭科が男女共修となった世代です。最近の調査や報告から推察すると、男性も家事、育児を家庭の中での役割として共に行うと考えている人が増えているように思います。

忙しい日常生活の中でも食生活を整える
今の時代に合わせた食事作り

今回の対象である子育て世代と言われる20代、30代、40代は仕事や子育てに多くの時間が割かれ、さらに、女性の出産年齢の高齢化から加えて介護を抱えることも少なくありません。自身や家族の健

康が気になりながらも日々の生活に追われているのが現状です。食生活は健康を支える基盤となりますが、この時期の生活習慣が後年の生活習慣病に与える影響は大きいと言われています。忙しい日常生活の中でも食生活を整えることは生活習慣病の予防以外にも子どもの食育の観点からも重要な課題であり、今の時代に合わせた食事作りを提案できないかと思ひ、研究を立ち上げました。

研究を進めてみると…

調理や片付けの「時間」、料理の「レパートリー」がキーワード

昨年度、子育て家庭での食事作りについてのアンケートを実施し、課題やニーズを抽出しました。食事作り(買い物、調理、食事、片付け)への満足度についてたずねたところ、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「満足していない」と答える人は買い物(32.2%)、調理(51.7%)、食事(42.1%)、片付け(52.0%)であり、特に調理や片付けへの満足度が低いことが分かりました。具体的には、「野菜の皮をむくこと」、「食材を切ること」、「ごみである」、「品数(メニュー)を考えると」、「食器、調理器具を洗う」という選択肢への回答が多く見られました。さらに満足していない点を自由にコメントしてもらい、分析すると図のようなマップングで表されました。調理におい

“家庭を持っているからできるこの研究、家政学の分野から子育て家庭の何かに役立ちたい”

では料理のレパートリーが少ないこと、子どもが小さいために時間がかかり、調理時間が足りないことなど「時間」や「レパートリー」といったキーワードが多く見られました。片付けにおいては洗い物が多いこと、面倒であること、時間がかかるという意見が多く、食洗機が欲しいという家事負担軽減への意見も多くみられました。



今後の研究は…?
家庭での食事から社会を担う世代や子どもへの健康づくりを!

この結果を踏まえ、解決する方法として、東京家政大学では2004年より東京ガス(株)との共同研究においてエコ・クッキングに関する研究や2013年より北区との包括協定において、家庭内のごみ減量リデュースクッキングの普及を行ってきています。

その中で、明らかになっていることは調理器具(加熱器具や鍋など)や調理方法(切り方、余熱など)の選択によっておいさを損なわず、電気、ガス、水、ごみ、調理時間の削減が可能であるということです。

しかし、このような省エネや時短につながる調理方法や調理器具を選択することによる栄養素の残存率、機能性の変化、食品成分の変化についてはあまり研究されていません。今回の調査でも「食事作りで心がけていること」の上位はおいしいこと(84.1%)、栄養のバランス

研究モットー
食事作りには悩みが尽きない
だからこそ…

この研究チームのメンバーは子育て経験者、子育て中の女性です。食や栄養の分野を専門にしていますが、食事作りには悩みが尽きないのが正直なところ。だからこそ、自分自身の現状と経験を踏まえて、家庭を持っているからこそ研究できるこの家政学の分野から子育て家庭の何か役に立ちたいと思ひ、研究を行っています。今は研究メンバーに女性しかいないのですが、ぜひ男性の視点からも意見を取り入れたいので、学内でも関心のある男性の先生はご協力をお願いしたいと思ひます。

「その場で足踏みでもいつから続けなれよ」といふ恩師の言葉

研究のモットーは「続けること」です。私が出産し、研究や仕事を少しお休みしようかと思った時に恩師に言われた言葉です。「その場で足踏みでもいつから続けなさい」と。止めてしまっても、もう一度始めることは並大抵の努力では戻れません。続けていけば必ず何か道が見つかる、と思えたきっかけでした。研究も結果がでたら終わりではありません。常に結果と共に次の課題が出てきます。子育て家庭への健康を支援する食事作りを発信し続けていきたいと思ひます。

香味成分の添加による 新たな減塩食の開発 および視覚効果を利用した 低カロリー食の開発

研究者：家政学部栄養学科 ＊佐藤吉朗／澤田めぐみ／峯木真知子

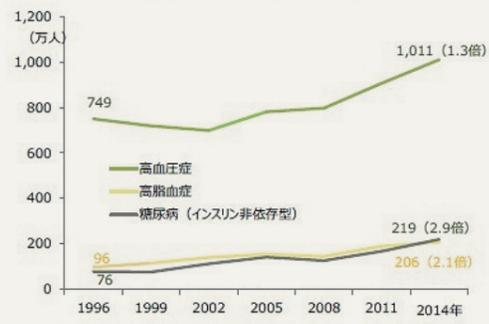
*執筆

現在、超高齢社会に突入し、生活習慣病を抱えている人口も(図1)からも分かるように増える傾向にあります。高齢者になっても健康を維持しながら長寿を保つことが望まれています。我々栄養に関わる研究を進める者にとって食事と健康は切り離せないものです。現在、高齢者を対象とした食品の開発に取り組み始めました。今回はその中の一つを御紹介いたします。



味噌汁のおいしさを損なわずに減塩するには？

「減塩味噌汁の開発」このようなタイトルを掲げたときに薄味の味噌汁がすぐに想像されますが、ここではできるだけ通常の味噌汁のおいしさを損なわずに食することのできる味噌汁を目指しています。我々は味、香り、色や食感といったおいしさに関わる感覚を全て脳で感じています。従いまして脳は潜在的な感覚から誤作動を起こすことがあります。我々日



(注) 年齢計であるため、高齢化の影響を含む
(資料) 厚生労働省「患者調査」各年
(図1) 生活習慣病患者の推移

“栄養に関わる研究を進める者にとって食事と健康は切り離せないもの”

本人にとって馴染み深い味噌は我々が生まれたときからずっと口にしてきた食品であり、それは「塩辛い食品」ということが刷り込まれています。従いまして我々は味噌の香りを嗅ぐと塩辛い味を直ぐに連想し、口の中が塩辛くなったような感覚が生まれます。これを利用しようというものです。即ち、味噌の香気成分だけを蒸留という方法で集めてきます。

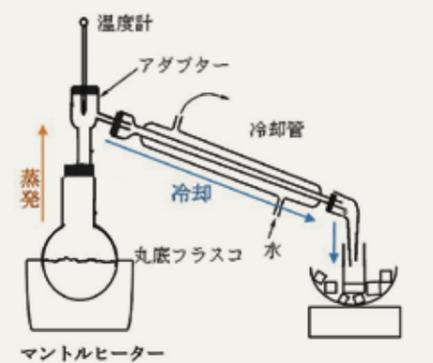
生活習慣病を抱える高齢者、病者の「生活の質」を向上

もちろん、これは香りだけを集めてきたものなので味はするはずがありません。この集めてきた香りを、通常の味噌汁の半分の量の味噌を使用した味噌汁に加えることによって通常の味噌汁に近い味わいを出そうという試みです。完成した味噌汁の塩分は二分の一はです。しかし香りを強めたために通常の味噌汁と変わりなく食することができるというものです。

こういった食品は(図1)からも分かるように、生活習慣病を抱える高齢者、病者に役立つはずですが、世の中で減塩が叫ばれる中、減らすことの難しい塩分を少しでも違和感なく減らすことができれば、「生活の質」(Quality of Life)をあげることができると考えます。

香りを扱う上で避けられない「揮発性」

香りを集めるためには(図2)のような蒸留装置を使い、丸底フラスコに味噌を入れて香気成分を蒸留濃縮します。水と共に蒸留された成分は水で急冷して集めます。これを減塩味噌汁に戻してあげられるわけです。こうした研究も、文章で述べられると



(図2) 香り成分を集めるための蒸留装置

一見簡単に感じられますが、香りを扱うわけですから、香りは何もなくても揮発してしまいます。集められた香り成分についてはしっかりとキャップをして保存することが重要です。また、香気成分を減塩味噌汁に加える際も、当然香りは揮発成分なので熱い味噌汁では余計揮発しやすい点を考慮する必要があります。

蜂蜜の香りを利用して低カロリーなどにも応用

最初に興味本位で併せだしにこの香り成分を足してみました。出汁だけの味のはずの汁がなんと味噌汁風味が感じられたのが、本研究をスタートさせたきっかけです。今回は、減塩という切り口で味噌の香気成分を利用して減塩を達成する試みについて御紹介しましたが、同じ発想で甘味を感じられる食品、例えば蜂蜜などの香気成分を集めて、低カロリー食に加え甘味成分を補強することなども考えられます。

今後、いろいろな広がりをお考え研究開発を進めていきたいと考えています。人の役に立つおいしい食品は何かを一丸となって模索していきます。

高齢者用衣料品の 風合いと快適性

研究者：家政学部服飾美術学科 ＊濱田仁美／潮田ひとみ

*執筆

近年少子高齢化が急速に進んでおり、高齢者が健康で自活した生活を送る(健康寿命を延ばす)ことへの支援は、とても重要な課題です。高齢者が生き生きと生活できる社会へ向けて、服飾分野から貢献できる研究を行っています。

研究その1 紙おむつや尿ケアナプキンの 着用快適性



紙おむつのひんやり感の測定

近年需要が急増している紙おむつや尿ケアナプキンは普及してきていますが、未だ使用への抵抗感は大きいです。これは、布製の下着との違いが大きいことが一つの原因と考えられ、布製の下着に近い風合いの紙おむつを提案することを目標としています。

この提案ができれば、外観が損なわれない紙おむつの着用によって外出したいという気持ちが高まり、外出によって活動量が増え、身体機能の低下を防ぐことができるでしょう。

研究その2 衣料品が濡れた場合の快適性

高齢者の健康維持として、ハイキングなどの運動負荷の低いスポーツが提案さ

れており、発汗や降雨などによって衣服が湿潤する危険に晒されます。湿潤した衣料品を着用すると、快適性が著しく低下するだけでなく、シルエット、動作性も低下します。衣料品が濡れた場合でも快適性が保持できれば、暑熱時の衣服の着用方法やスポーツウェアの選び方、また、災害時などで着替えられない場合に体温低下を防ぐ方法などに応用することができそうです。

研究その3 高齢者用寝具・寝衣の快適性

快眠は健康維持のために大変重要で、高齢に伴い表皮の角質水分保持能力が低下するため、皮膚の乾燥と掻痒感に悩まされる高齢者が少なくないです。保湿性を付与することで、風合いがよく、快適性に優れた高齢者用寝具・寝衣を提案することを目標としています。

いずれの研究テーマも、私たちの暮らしの質を向上させて快適に暮らすために役に立つ研究であると自負しています。

研究を立ち上げた理由や背景 地域と連携しながら、高齢者が 生き生きと生活できる社会に向けて

本学が隣接する板橋区や北区は、特に高齢者の多い地域でもあります。地域と連携しながら、高齢者が生き生きと生活できる社会に向けて役立つ研究を行いたいと思ひ、衣料分野からの内容として本

“衣服の快適性とヒトの感覚に関わる研究は、難しさがあると共に奥深く面白い”

研究を立案しました。我々は過去に、乳幼児用紙おむつの快適性についての研究を行っており、その知見を役立てられるとも考えました。

自分自身が汗っかきであることが研究を考へはじめたきっかけ

衣料品が濡れた場合の快適性については、自分自身が汗っかきであることが研究を考へ始めたきっかけです。大学生のときに、左右に異なる素材を使ったシャツを着用して運動するという実験の被験者をしました。皮膚に接触する素材が異なる、着心地が変わることを実感し、快適感や着心地に関する研究をしたいと思いました。

衣服の素材が着心地に影響することは当然ですが、それよりも汗をかいて気持ち悪い、蒸れる、皮膚が濡れているといった着心地を損なう感覚を明らかにしたいと感じ、ヒトの感覚に関することを勉強しました。皮膚が濡れている、湿っている、むしむしする、逆に乾燥しているといった、湿度に関する感覚は、実は、温かい・寒いといった感覚と違って、皮膚にある感覚受容器が直接反応するわけではないということもわかり、この分野は深く面白いくわたり、研究の知見が直接生活の質をあげることに役に立つと思ひました。



湿潤による熱移動量測定装置

研究のこが面白い！ ヒトの感覚に関わる研究は、 奥深く面白い

衣服の快適性というのは、衣服素材の性質とヒトの感覚の両方に依存するため、研究はヒトの性質を装置で測定する物性評価と、ヒトの使用感や触感などによる官能評価を行います。官能評価は個人差が影響することも大きく、また物性評価との関係性が明確に見つからないこともあります。多くの被験者による官能評価を行ったのに、傾向がつかめないこともあり、苦労したこともあります。しかし、ヒトの感覚に関わる研究は、難しさがあると共に奥深く面白いのです。

古くからのこがわが科学的に解明

また、日頃わたしたちが何となく気持ちがよい、快適だ、と感じている理由や古くから使われていることわざが、科学的に解明された時には面白い！と感じます。例えば、「頭寒足熱」といわれる身体の保温方法が脳の機能や体温調節反応と対応すると気付いたときや、湯たんぼの熱の移動の仕方が睡眠時のヒトの生理反応から考えると理にかなっているかと納得できたときには、まさに、温故知新！を実感しました。

研究モットー 楽しいことは集中でき、 持続して取り組める

「探究心を持って、楽しみながら」自分がわくわくするような研究をすることが、とても重要だと思います。楽しいことは集中できますし、持続して取り組めます。そして、研究を行う上で「探究心」はとても重要です。一つの結果が出たら、そこから更なる課題を見つけ、その繰り返しで素晴らしい研究成果が得られると思っています。

特集 『去年のショーを越えたい』 学生たちの奮闘に迫ります。



毎年10月下旬の週末に開催される緑苑祭で最も集客数が多い企画が、服飾美術学科の学生を中心に公演されるファッションショーです。このファッションショーを実施しているのが「EVE」という学生団体です。服飾美術学科の学生が中心となり、学科の枠を超えて毎年約200〜300人の学生がスタッフとして集まる大所帯。今回はその「EVE」代表の学生インタビューをお届けします。

〈EVE〉代表インタビュー

総勢約250名の学生団体「EVE」の代表を務める片山さんと戸毛さん。ファッションショーを作り上げる道のりや、大人数の団体を取りまとめる上で直面する課題や見出し始めた解決の糸口、「EVE」の活動を通してお二人がどんな成長を実感しているのか、お話を伺いました。



(左)戸毛菜々子さん、(右)片山由唯さん
(二人とも家政学部服飾美術学科3年)

プロジェクトフロー

ファッションショーはどのように作り上げられるのでしょうか？毎年1月にその年のテーマを設定することから始まります。次に、テーマに沿ったデザイン画を2月に募集。デザイン画を選考・決定していきます。デザイン画の決定を受けて、モデルオーディションを実施。モデルが決定すると、モデルの採寸や材料選定など衣裳制作が本格化します。材料の調達では、協賛企業に協力交渉をして、必要な生地や付属品などの材料を提供していただきます。その他、演出・メイク・プレス・広報・舞台・照明・音楽・映像会計・記録等のチームに分かれ、本番まで準備を続けます。

テーマにあったデザイン画を応募者からどう引き出すか??

最初の難関となるのが、テーマにあったデザイン画ができるかどうか。

「デザイン画募集の説明会でテーマや各シーンに求める世界観を説明するのですが、この説明がその後を左右します。うまく伝われば意図に沿ったデザイン画があらわれますが、その逆だと、意図とかけ離れたデザイン画ばかりの状況に陥ってしまいます。」(戸毛さん)

先輩からの引継ぎ時でもこのフェーズの重要性については入念にアドバイスをもらい、

「デザイン画の応募者への確に伝えることを意識して、説明資料も推敲を重ね、

デザインイメージを用意するなど工夫しました。」(片山さん)

今年は約150枚のデザイン画の応募があり、最終的には32枚が選ばれました。

全ての選考にあるブレない軸とデザイン画を具現化する縫製の地道な努力

デザイン画の決定を受けて実施するのが、モデルオーディション。身長やスタイル、ウオーキングも選考基準ですが、重視するのはデザイン画のイメージに合っているかどうか。

「これまでは高身長モデルを選んでいましたが、可愛くてふわふわしたイメージのシーンだったら、身長が低くても揃っていたら世界観としてまとまるよねと話して、今年は高身長にこだわりすぎない選考をしました。」(片山さん)

衣裳の元になるデザイン画はテーマやシーンで表現したい世界観に合っているかどうか、モデルはデザイン画に合う人物かどうか、どの段階の選考にもブレない軸がしっかりとあります。

デザイン画を実際の衣裳にするのが縫製チーム。夜遅くまで連日作業をして、衣裳を作り上げていきます。華やかで斬新な衣裳の裏には、途方もない道のりの作業をこなす縫製チームの努力があります。

「ファッションショーは、縫製チームが毎日地道に一つ一つの作業を頑張っているからこそ、成り立っています。」(戸毛さん)



目標設定 『去年のショーを越えたい』過去の記録を徹底的に研究しさらなる高みへ

今年度は当初、メンバーの集まりが芳しくなく、衣裳の数を減らすと検討したこともあったそうです。

「減らすのは簡単ですが、ショー全体の

ボリュームがさみしくなってしまうのですよね。それは避けられたので、メンバーが少なくても踏ん張って頑張ろう！と思いついて、例年と衣裳の数は変えないうで進めることにしました。」(戸毛さん)

準備のスタート時には、過去の先輩たちが行ったショーのパンフレット全てに目を通し、過年度の良いところを徹底的に洗い出して研究し、そこに自分たちの

オリジナリティーを加えていきました。「毎年、『去年のショーを越えたい』って想いがあるって、その積み重ねがEVEのファッションショーの神髄です。」(片山さん)

成功の秘訣はどれだけ高い目標を設定できるか、これがEVEのファッションショーの好評を生む原点ではないでしょうか。





団体の運営
お互いの仕事が理解できず
険悪なムード…
感謝の好循環で解消を

昨年、戸毛さんは縫製、片山さんは縫製と演出を兼務していました。実際の準備段階では、幾つものチームがそれぞれ作業に取り掛かるので、お互いにどんな仕事をしているのがチーム間で理解し合えず、険悪なムードが漂ってしまっただけでもあったのだとか。

「今年はそのうちいい感じに、そのチームで今どんな仕事をしているのか、どんな進捗なのかをメンバーのSNSで共有して、全体の一体感を生み出す環境づくりをしています。」(戸毛さん)

代表の二人が何度も使ったのが「感謝」という言葉。感謝の気持ちこそが、メンバーのモチベーションを保つポイントだと語ってくれました。

「例えば、モデルが会場に入ったときに、舞台が出来上がっていることを当然と思うか、舞台を作り上げてくれたメンバーにありがとうと思うか。他のチームの仕事を知っていれば、感謝の気持ちが生まれます。この気持ちがメンバー同士には絶対に必要なだって思いますし、だからこそ、最近を意識して片山さんにも常にありがとうって言ってるんです(笑)」(戸毛さん)

同じ目標に向かって動いているにも関わらず、バラバラになってしまいがちなメンバーの気持ち。自ら率先して感謝の

気持ちを持ち、それを相手に伝えることで、メンバー間の関係性を円滑に、組織を活性化させようと奮闘している代表の二人です。

個人としての成長

**EVEは成長させざるを得ない場！
社会で生き抜く知恵や術を体得**

戸毛さんは、思ったことをハッキリ言葉にして言うタイプ。普段だったら自分の価値観と合わない人とは関係性を断ち切ってしまう傾向があるけれど、代表として多くのメンバーを動かす立場ではそうはいきません。「同じことを伝えるにしても、相手によって表現方法やニュアンスを変えるようになりました。前の自分とは変わったし、EVEは日々色々なことが起きるので、成長せざるを得ない場、なんです！」(戸毛さん)

一方の片山さんは、戸毛さんとは逆にハッキリ言えないタイプだそう。「自分が伝えたいといけないうことがあっても、相手の話に聞き入ってしまうと、結果として言えなかった…なんてことがあるんです。でも、団体を運営するには、きちんと言うことが不可欠な場面もあるので、戸毛さんと役割分担をしながら、慣れていきたいですね。」(片山さん)



二人から読者の皆さんへ
メッセージをどうぞ!

ファッションショー
全体の世界観が最大のウリ、
お子さんから年配の方までを魅了します♡

戸毛さん 「EVEのファッションショーは、リアルクローズからは離れた、普段では着られないような衣裳が登場します。音や照明などの演出にも凝って作り上げ、ファッションショー全体の世界観を楽しんでいただけます。絶対に観に来てください!」

片山さん 「地域の方や保護者の方、お子さんを連れた家族などいろいろな方がいらしゃいます。だからこそ、老若男女問わず満足いただけるショーを目指しています。皆様のお越しを心よりお待ちしております!」

※当日のタイムテーブルは後日、EVE公式ツイッターやInstagramで公開する予定です。
Twitter:@TKU_EVE Instagram:@tku_eve

今年の見どころ&テーマ

今年のテーマは、
「可愛い子には旅をさせよ」
旅の果てに出会う
新しい自分との出会いを表現

このテーマに込められた想いを伺ってみると、

「『可愛い子』を自分自身に置き換えて、可愛い自分が自分自身を色々な旅に連れ出して、その果てに成長している自分がいることを表現したいと考えています。様々な経験を経ていく過程を各シーンで表現し、シーンが進むにつれて違う世界観で旅を続け、そして最終的には新しい自分に出会う、といったような感じです。」(片山さん)

日常でもよく使われることわざがファッションショーにどう落とし込まれるのか、実際に緑苑祭へいらしていただき、ご自身の目で是非ご覧ください!

2019年度
『緑苑祭』

令和初! 秋の一大イベント
盛り上がっていきましょう♡♡♡

2019年10月26日(土)・27日(日)
※狭山校舎は10月27日(日)のみ開催

EVEファッションショーも開催されます。

テーマ

- ▶ 大学(板橋) Prologue ~0話~
- ▶ 大学(狭山) とうめい。
- ▶ 附属中高 おいでよ kaseiの森 in 緑苑祭
- ▶ 幼稚園 めざせ メダリスト!! みどりがおかオリンピックをたのしもう!

東京家政大学グローバル教育センター

高い専門性＋英語力・グローバルマインドを築く

English Loungeのマンツーマン (個別英会話)レッスン

**自分の目的にあったレッスンが可能！
周りに人がいると緊張してしまう方にもおすすめです。**

なんといっても一番人気は English Lounge のマンツーマンレッスンという非常に質の高いプログラムです。質が高だけでなく、学生は実質無料で利用することができるのも魅力の一つです。今年度は昨年度からさらにレッスンの提供回数を増やし、より多くの方に参加してもらえるようになりました。マンツーマンのため自然と発言の機会も増え、日常会話をはじめ、英語の資格試験の面接練習など、自分の目的にあったレッスンを受けることができます。周りに人がいると緊張してしまう、という方にもおすすめのレッスンです。English Lounge はマンツーマンの個別英会話レッスンの他にグループレッスンや、講師の先生と一緒にお昼を取りながら会話するランチレッスンもあります。自分にあったレッスンスタイルで英語を学んでもらうことができます。



英会話のトレーニングをする オンライン英会話

**英語を英語のまま理解して話せるように！
授業の空き時間に気軽に利用することができます。**

頭の中で日本語から英語に訳して話すのではなく、英語を英語のまま理解して話せるようになりたいですね。オンライン英会話はそのためのトレーニング式レッスンで、英語を反射的に話せるように訓練します。こちらマンツーマンレッスンなので、周りの目を気にせず英語の学習に集中して取り組める環境があります。また、利用できる時間も平日の10時から15時半であればいつでも受講が可能になっているので、授業の空き時間に気軽に利用することができます。オンライン英会話は継続していくことが大事ですが、二年前から導入を始めて、継続して毎週参加している人も多くいます。



英語学習の悩みを相談できる英語学習相談の開設

先生に定期的に学習相談をしながら、TOEICのスコアを大幅に上げた学生も！

今年度から新しく始めた取り組みとして、毎週火曜日～木曜日の三日間、英語の学習に関する悩みを相談できる英語学習相談を開設しました。

就職活動のために TOEIC のスコアを上げたいけれどどのような勉強の仕方がよいのかや、留学したいけれどどんな勉強をしたらいいのかなど、どんなことでも英語に関することであれば相談することができます。先生に定期的に学習相談をしながら TOEIC のスコアを大幅に上げた学生もいるそうです。



英語学習アドバイザー

学内留学しよう！

英語を勉強したいけれど専門科目の勉強に時間がかかって英語に手がつけられない。そんな本学の学生ならではの悩みにこたえられるように、学内の英語学習サポートは始まりました。今回は英語学習サポートのプログラムをいくつかご紹介します。

English Lounge & オンライン英会話 利用者インタビュー (家政学部環境教育学科2年生Sさん)

**Q 昨年1年間、現 English Lounge と
オンライン英会話を利用していましたが、
環境教育学科で英語の勉強を続けている
理由を教えてください。**

A もともとは就職活動の際に TOEIC のスコアを記入し、就職活動を有利に進めたいという思いがあり英語学習サポートの利用をはじめました。最初の個別レッスンではいかに自分が英語を話せないかを痛感し、もっと英語を勉強しようというモチベーションにつながりました。去年一年間はオンライン英会話で英語を口から発するトレーニングをし、個別レッスンで実際の会話力を試す、という使い方をしていました。一年間継続していて、最初は頭の中で日本語から英語に訳して話していたのが、継続するうちに、日本語からではなく自分の持っている英語のボキャブラリーで会話をつなげられるようになりました。

**Q 英語の学習成果を
生かす機会はありましたか？**

A 今東京オリンピックのボランティアに応募しているのですが、そこで成果を活かせると思っています。去年の募集の際にボランティアとしてぜひ参加したいと思い応募をしました。結果がでるのは今年の夏になりますが、高い英語力が必要とされるボランティアになると思うので、英語学習には今まで以上に力を入れていきたいと思っています。専門の勉強も増えますが忙しくなる毎日ですが、TOEIC のスコアも 780 を目指しているため、英語学習アドバイザーさんにも頼りながら一年後には目標を達成したいと思っています。

グローバル教育センターでは今回紹介したプログラム以外にも e ラーニングや年間100日英会話のレッスンを学内で受けられるキャンパス英会話など、さまざまな学習機会を学内で学生のみみなさんの負担にならない価格で提供しています。東京家政大学に入ったからこそ、高い専門性と英語力を養うことができた、と思ってもらえるよう、これからも学生のみみなさんにとって利用しやすく、よりよい教育の機会を提供していきたいと思っています。

KUAN LOKLIM

クアン ロクリンさん

家政学部栄養学科管理栄養士専攻2年
マレーシア出身



2018年に東京家政大学へ入学したマレーシア出身のクアン ロクリンさん。日本や東京家政大学を選んだ理由、将来の展望について聞きました。

両親の影響から日本好きに、
オリンピック開催が後押し！

もともと両親が日本好きで小学校のころから5回ほど日本に旅行していたので、日本は馴染みのある国でした。高校3年生の時に進路を考えるにあたって、他の国で学びたいという希望があって、留学先として台湾を考えたこともあったんです。でも、台湾は中国語ですし、わたし自身が中国語を話すので、せっかくなら違う言語がいいなと思って。オリンピックを観戦したいというのもあって、最終的には日本を選びました。(ちなみに余談ですが、オリンピックでは水泳とバドミントンが観たいです。)

アニメや漫画で日本語を浴びて習得

親戚に日本のアニメや漫画が好きで人がいて、小学校のころから一緒に観ていました。最初は何がなんだかわからなかったけど、徐々にわかるようになってきて。だから、特別に日本語の勉強をしっかりとしたというよりも、アニメや漫画を観ながら自然に習得していった、という感じなんです。日本に留学しよう決めて、高校を卒業した後の1年間は、高田馬場にある日本語学校へ通って、大学受験へ向けて本

格的に日本語の勉強をしました。

東京で栄養が学べる大学を探して

食べることが好きで、料理やお菓子作りも好き、自分の特性を考えると大学では栄養学を学びたいなと思いました。大学を選ぶにあたっては、奈良にある栄養学を学べる大学も見に行ったのですが、やっぱり都会の大学に通いたいなという希望が強くあったんです。そこで「東京で栄養が学べる大学」を探して東京家政大学を見つけました。大学案内の資料を見て、日本語学校の先生とも相談して、受験を決めました。

楽しい授業は調理実習、
包丁使いが…苦手

1年生の時は座学が多かったですが、2年生になって加藤和子先生の「基礎調理実習」を履修してとても楽しいです。先生が先にデモンストレーションで調理して、グループでそれを調理する授業で、最近はサーモンのムニエルを作りました。自分では作ったことがない料理が次々に出てくるので勉強になります。献立の立て方や調理作業を能率的に進めることを学んで、毎回発見があります。今の課題は包丁使

い。どうしても包丁使いが苦手なので、家で料理をしながら上達すると良いなと思っています。

国際交流のイベントで友達作りも

入学してみても、友達がみんな優しくて学校生活は楽しく過ごせています。特にグローバル教育センターの教職員の方々には丁寧なサポートしてくれて、良い人ばかり。1年生の時には「国際交流バス旅行」や「国際料理教室」に参加して、そこでは同じ管理栄養士専攻でも違うクラスの友達ができました。「国際料理教室」では、マレーシアのお菓子の作り方を日本人学生へ紹介して交流できました。こういう機会があるのは嬉しいし、今年も参加する予定です。

日本で食品会社に就職、
その後は色々な国で働いてみたい！

大学を卒業したら、まずは日本の食品会社に就職したいです。今のところ、食品会社では研究や商品企画に関わってみたいなと思っています。そして、いずれは色々な国で働いてみたい。英語も使って、日本以外の国にも行ってみたい。視野を広げてチャレンジすることが希望です。

クアンさんってこんな人!

- 好きな日本食**
漬け物
(特にきゅうりとカブが好物!)
- お昼ごはん**
毎朝お弁当を作って友達と食べる。
(お弁当作りは好きで苦じゃありません!)
- 休みの日の過ごし方**
街歩きをすることが多くて、最近では自由が丘で雑貨屋さん巡りをしました。自由が丘はそれほど混雑してなくて静かな街並みが気に入りました。他には、表参道や中目黒も好きです。
- 日本の好きなお店**
レストランでバッグを置いたまま席を立ってお手洗いに行っても、盗難されなくて。やっぱり治安の良さかな!
- 日本で驚いたこと**
冬の寒さ! マレーシアに冬はないので、めちゃくちゃ寒い! まだまだ慣れません(泣)あとは、電車が時間ぴったりに運行すること。電車が日本みたいに混んでいることはないで、びっくりしました。

スタートアップセミナー 「自主自律」

2019年度から共通教育科目の「コア科目」として本格的にスタートした「スタートアップセミナー自主自律」。学科の枠組みを超えた横断的なクラス編成となっており、他学科の学生と一緒に「協同学習」で学びます。各クラスに上級生を「スチューデントアシスタント」として配置しているのも、その特徴です。 ※家政学部・人文学部のみ



学修・教育開発センター 井上 所長

今回は、学修・教育開発センター(CRED)の井上俊哉所長にお話を伺いました。

— 実際にはどのように授業を進めているのでしょうか? —

お互いが協力しなければならぬ学習方法を取り入れて
大半は1クラス40人で、5人のグループを8つ編成し、グループ討議を中心としています。各グループは、全て異なる学科の学生が入るようになっています。
授業では、「ジグソー法」というアメリカの社会心理学者が提唱している方法を取り入れるなど、一言でいえば「お互いが協力しなければならぬ学習方法」を採用しています。

責任感と自信の醸成、全員が関与する点にも意義

この方法が進めると、第一に、自分が文献を読んでこないといけないという責任感が生まれますよね。自分が読んでこない他のメンバーに迷惑が掛かってしまいますから。第二に、「エキスパート活動」を通じて、自信を持つことができます。同じ文献を読んだメンバーが集まって話すことで、自分の理解が浅かったところを補えたり、自分の理解に対して他のメンバーから共感してもらった



「ジグソー法」の進め方(参考)ジグソー法とは? アクティブラーニングの実践方法を紹介 アーチブメントHRソリューションズ(https://achievement-hrs.co.jp/ritori/?p=2967)

目的意識の違う学生との交流で刺激を

5または4人で1グループになるのですが、そこには普段顔を合わせない学科の学生がいるわけです。他学科の学生だと、目的意識も全く違いますよね。資格取得を目的に学んでいる学生もいれば、資格をそれほど意識しない学生もいて、お互いに新鮮さと刺激を得ているのかもしれないね。

— 学生からは、「他学科の学生と一緒に学べて嬉しい」との声も聞かれています。

りすると、最後の「ジグソー活動」で内容を発表するときに自信を持って話せるんですよ。全員が必ず関与する点にも意義があります。

教員中心から学生中心の大学へのシフト

— これまでの授業との大きな違いはどんな点でしょうか? —
社会も学生も変化の中で、大学の授業に求められることを考えたとき、一昔前のように、教員が喋りたいことを話して、学生が聞いていて聞いてなくても関係ないという時代は、当たり前ですがとくに終わっているんですよ。教員中心から学生中心の大学へのシフトが求められています。

— 「スチューデントアシスタント」(以下、SA)にCCU(教えた)やS(教えた)を聞かせてください。
SAは2・3年生が大半で、各クラスに1名配置されています。第4回の授業では、SAにこれまでの学生生活を20分間で話してもらう機会を設けました。僕のクラスでは、どんな思いでこれまでの学生生活を過ごしてきたか、目標を決めて過ごすことの大切さを語ってくれて、「SAの先輩に憧れました」という学生からの感想もあって、好評でした。

議論の過程を何度も経験することで得る気付き

— 自分とは異なる価値観を持った人たちと、とにかく一緒に話してみても、多様性を知ろうというところにあります。
だからこそ、この授業の狙いは、自分とは異なる価値観を持った人たちと、とにかく一緒に話してみても、多様性を知ろうというところにあります。

4年後のキャンパス活性化に期待

— この授業を通じて学科を超えて仲間を作りたいし、今後4年が経過すると、キャンパス内の学生が全員この授業を受けたことになり、キャンパス全体も活性化するのはと期待しています。
また、自分の強みと仲間の強みが合わされば、自分ひとりではできないこともチームならできるんだというのを伝えてほしいですね。授業だけでなく、色々な活動を通して、それを自分のものにしていくって、えたら良いなと思います。



わたしの好きな食べ物

牡蠣
(特にフライと鍋が好きです♡)

わたしの昼ごはん

今日(取材当日)から自分で弁当を作っています。高校生の時も自分で弁当を作っていたので、再開しました。これからも続けたいです。

大学へのリクエスト

(せっかくだから聞きました)

トイレの洋式を増やして欲しいです。(周りの友達も同意見だそうです。By編集者)

女子大だから
友達もできやすく、
楽しい毎日。
将来はスポーツ栄養の
領域に進みたい!

藤本 ゆりかさん

家政学部 栄養学科 管理栄養士専攻1年



フラダンスサークル
~Pua Lani~

歌詞や踊りの意味を理解して伝える練習、新しい企画への挑戦!

本号のサークル紹介は、「フラダンスサークル『Pua Lani』」。サークル名の「Pua Lani」(プアラニ)とは、「楽園の花」という意味です。創設6年目の比較的若いサークルですが、緑祭のステージでは多くの観客を惹き込み、昨年度は学外等でのイベント参加といった積極的な活動が評価され、サークル団体表彰にも選ばれました。フラダンスサークルの部長である伊藤美月さん(短大保育科2年)に話を伺いました。

大半は初心者、練習を続けて一歩一歩できるようになる。現在の部員数は約50人、大半が未経験者だそうですが、「入部の動機は、華やかさに惹かれてというものが多くあります。わたし自身は、高校時代にダンス部で踊ることが好きだったので、体験に行ってみようと思った。」

練習時間は、月曜日と火曜日の週二回、月に3回は外部からコーチが来て教えてもらっているそうです。優雅で笑顔に包まれる幸せな気持ちにさせてくれるフラダンスですが、観ると踊るのでは大違い、「腰と手の動きが難しいですね。普段はあまり使わない筋肉を使っている、初心者の頃は全然できなかったのですが、練習を続けていって一歩一歩できるようになりました。」

歌詞や振りの意味をしっかりと理解して、表現する。フラダンスの公演では、「お客様にフラを楽しんでもらうことを方針としています。笑顔はもちろん、歌詞や振りの意味を表現できるように練習を重ねています。実際には、コーチから新曲の振りを教えてもらう前に歌詞とその翻訳を送ってもらい、それを練習前に各自が確認して理解するようにしています。」何を表現すべきなのかを部員一人ひとりが意味を咀嚼して理解する、そのために練習前に予習をする「フラダンスサークル『Pua Lani』」が活躍している理由はここにあると感じました。

初の単独公演、春には「お花見公演」も

例年参加しているお花見ハワイ・フェスティバルといったイベント参加の他に、昨年12月には初の単独公演、今年の3月下旬には板橋キャンパス内の芝生で踊る「お花見公演」も実施しました。「お花見公演」は今年初めて企画した公演で、当日にまだ桜が咲いておらず、しかも強風で椅子が倒れたりして、大変だったんですよ。色々な苦労はありながらも、新しいことを企画してチャレンジを続ける姿勢がサークルのステップアップにつながっています。



部長としての心遣い、真摯に向き合う誠実さ

伊藤さん自身が部長になった経緯を伺ってみると、「同期の中で誰が部長に相応しいかを投票して、得票数が最も多かったみたいで、先輩から部長の打診がありました。自分が部長になるとは思っていなかったのですが、わたしで良いのかなというのが正直なところでしたが、引き受けることにしました。」実際に部長を務める中で、「今までの学生時代は、委員長やリーダーを務めるタイプではなかったんです。初めての経験で、部員にどういふ言葉かけたら良いのか、どうしたら聞き入れやすい表現になるだろうかと、今はまだ手探りです。」リーダー的なタイプではなかったという伊藤さんですが、部員への心遣いを話してくれ、真摯に部長の仕事へ向き合う誠実さが伝わりました。

今後は…、ドレス姿の発表に期待!

フラダンスというやはり気になるのが可愛らしいカラフルな衣装。どうやって決めているのかという、「衣装係が担当しています。部員からの意見を聞きながら、在庫や値段を調べて候補を出してもらい、最終的に部員の投票で決まります。」次の衣装はドレスを発注しているそうで、今後はドレス姿での公演も楽しみ中です!

Q: 管理栄養士専攻を選んだ理由は?

A: 他の道も考えたけれど、やっぱり栄養!

小さい頃から食えることが好きで、バレンタインにはマカロンなどのお菓子を作ることが好きだったこともあって、中学生で進路を考え始めたときに、自分の好きなことの延長線にある栄養系に進もうかなと思っただけです。でも、進路を選ぶ途中で、美術やヘアメイクにも興味を持ったこともあって、美術系は競争率の高さを目の当たりにしましたし、一方ヘアメイクは趣味で楽しめれば満足かなと思って、最終的には栄養に絞りました。管理栄養士は就職先の幅も広がるし、頑張ってみようと思って選びました。

Q: 特に好きな授業は何ですか?

A: 不安だった生物も先生の丁寧な説明で...

太田一樹先生の「解剖生理学」です。先生自身が自分の体を使いながら、身振り手振りを交えて人体について説明してくれます。生物が受験科目ではなかったのですが、生物系の科目にはちょっと不安がありました。先生が丁寧に説明してくださって、一つのテーマについての説明が終わると、その都度、「大丈夫? わかりましたか?」と投げかけてくださる点も、安心して授業にのぞめています。

Q: スタートアップセミナー「自主自律」(2019年度から開始)はどんな授業ですか?

A: 授業で他学科の友達ができる!

他学科の学生と一緒に受けることができる唯一の授業で、グループディスカッション形式なので、すぐに打ち解けて、他学科の友達が増えて嬉しかったです。管理栄養士専攻以外の違う分野に興味を持っている子の話を聞くことは、とても新鮮で刺激を受けています。最近の授業では、「話し合いの仕方」を学びました。「話す人が話しやすい空気を作るためにはどうしたらいいか?」がテーマでした。相槌を打つことや、その人の発言内容を引用しながら自分の意見を言う

ことを学んで、普段のコミュニケーションにも生かしていけるものでした。

Q: 大学生活はどのですか?

A: 女子大って少し怖そうと思っていたけど...

充実しています! 女子大だと友達もできやすく、毎日楽しいです。初日の学生証交付の日に、並んでいた列の前後になった子と話して、すぐに盛り上がり、友達になりました。高校までは共学で、女子大って少し怖そうというイメージは実は持っていたんです。女子大だけだと、いじめがあるのかな、とか。入学したら全然そんな雰囲気はなくて、女子大なのに気軽に何でも話せて、良い意味で予想外でした。

Q: 高校と大学の違いはどんなところがありますか?

A: パソコンでのレポート作成に苦戦中...

高校はレポートを手書きで書いていましたが、大学はパソコンで作成するのに今は苦戦中です。パソコンにはまだ慣れていないので、「情報活用」の授業などで習得しながら、スキルアップしていきたいです。

Q: 大学生活でやってみたいこと、将来の展望を教えてください。

A: 目標を持っている人のサポートがしたい!

高校の時から英語が好きなので、英語にも力を注ぎたいなと思っています。オーストラリアへの短期研修もあると知ったので、大学生活で一度は参加したいです。将来は、スポーツ栄養の領域に進みたいなと考えています。スポーツをやっている人って、プロになりたいとか、引き締まった体になりたいとか、皆さん必ず目標を持っているじゃないですか。そういうキラキラした人のサポートをしたいです。わたし自身もバドミントンやジャズダンスを以前にやっていて、体を動かすことが好きなので、スポーツに関わりたいと思っています。

6月16日(日)母校に帰る日 in 板橋キャンパス

「母校に帰る日」とは??

その年3月に卒業した卒業生の懇談会。卒業生が集まり、自分の働く職場についての情報交換や近況報告をしながら、大学時代の友人と語り合うことでリフレッシュする機会です。教員も参加し、社会人となって数カ月経った頃に抱える仕事や職場の悩み相談を受け、卒業後のフォローアップを行います。

おかえりなさい!!

今年度の「母校に帰る日」には 2019 年 3 月に卒業したばかりの卒業生約 100 名が参加しました。「久しぶりー!」と友だちとの再会を楽しむ声飛び交い、会場は賑やかな雰囲気となりました。参加した卒業生は、卒業してから2カ月半しか経っていませんが、どこことなく大人の女性へ一歩ずつ成長している姿に映りました。

教員からのメッセージ PICK UP

参加教員から 卒業生へメッセージが 贈られました。

- ・わたしが大学時代に先生から言われた言葉は「人生は忍耐と努力」。みなさんの活躍をこれからも楽しみに期待しています。
- ・周りに「あの人がいい仕事してるな」と思える人がいたら、その人の仕事を観察して真似して、自分のものにしてください。
- ・疲れたときは、よく食べて、よく寝て、笑えるものを見つけて、ストレスをちょくちょく発散しましょう。それが良い仕事にも繋がります。
- ・相手が良い人になるか悪い人になるかは、自分の接し方ひとつで変わるものです。自分と向き合える、素直で素敵な女性になってください。

〈卒業生のみなさんへ〉

いつでも里帰りしてください

「母校に帰る日」といった特別な日なくても、いつでも東京家政大学に里帰りしてください。東京家政大学はずっとみなさんの居場所です。何かあったら(もちろん、何もなくても!)、ぜひ遊びにいらしてください。

〈学長挨拶(※抜粋)〉

学長 山本和人

「石の上にも三年」

「みなさん、おかえりなさい。早くも3カ月が経ちましたが、卒業後の生活はいかがですか?順調に進んでいる方は先生にその旨を報告して欲しいですし、ちょっと苦労しているという方は先生方に相談してみてください。

社会に出て実感していると思いますが、仕事は組織で進めていくものです。自分だけが頑張れば成果が出るものではありませんし、逆に自分が足を引っ張ってしまうことも時にはあります。そういう中で、やはり人間関係が非常に大事です。だからこそ、ハウレンソウである報告・連絡・相談、この3つを忘れずに、上司や同僚との関係性を密にしてください。

自分が思っていた職場とは違うという人もいるかもしれませんが、最初から「これほど最適な良い職場環境はない」という人はまずいません。「石の上にも三年」という言葉があるように、少し不満がある環境でも、改善に向けて取り組むことが自分の成長に繋がることもあります。本学の建学の精神『自主自律』、生活信条『愛情・勤勉・聡明』を忘れずに、今後の活躍を期待しています。困ったことがあれば、いつでも大学に帰ってきてください。」



小学校教諭 (児童教育学科卒業)

4年生の担任をしています。毎朝、教室で子どもたちを迎え、教育実習では体験できなかった行事にも参加し、大変な仕事もありますが、憧れの理想の先生になれるように精一杯頑張ります!みなさんも教員採用試験、頑張ってください。

保育士 (短大保育科卒業)

「どうしたら良いのかな」と思うことも日々たくさんありますが、先輩に教えてもらいながら頑張っています。どんなときも子どもたちは可愛いく、この子たちのために頑張ろう!と思えます。不安もあると思いますが、自分のやりたいことに向かって進んでください。

〈卒業生からのメッセージ〉

卒業生に書いていただいたメッセージは16号館1階のボードに掲示し、在学生がいつでも読むことができます。

アパレル会社勤務 (服飾美術学科卒業)

接客業なので、接するお客様によって一喜一憂することもあります。入社してもうすぐ3カ月、やっと仕事にも慣れてきて楽しく働いています。4年間家政大で学んだことを活かしているかなと思います。服に囲まれて働くのは楽しいです。これからも頑張ります。

栄養士 (栄養学専攻卒業)

栄養士として保育園で働いています。理想を高く持って働き始めた場所ですが、現実はやはり違って、いつまで続くのかなと思い始めた時に、先生と話して、まだもう少し続けて頑張っていこうと思えました。

6月1日(土)教育進路懇談会

保護者のための就職講演会



テーマ 「AI時代」に活躍するために 学生時代にしておくべきこと

講師：深沢真太郎氏 (BMコンサルティング株式会社代表取締役、一般社団法人日本ビジネス数学協会代表理事)

数学的、に考え伝える
深沢氏による講演は、終始一貫して「数学的」というキーワードで語られました。これは、数学ができるかできないか、で

はなく、数学的な思考ができるかということ。深沢氏は、「社会で仕事をやる上で、どの仕事でも「考える力」と「伝える力」が軸になる。これにキーワードである「数学的」を掛け合わせて、「数学的に考える」

「数学的に伝える」ことが社会で活躍できる人材には必須。」と語っています。講演の中では、深沢氏が過去に行った大手外資系アパレル企業における研修の実例が紹介されました。その研修内容は、店舗マネージャーが店のスタッフに、今年目標を達成するために何をすべきかをプレゼンするというもの。講演では、研修開始時と終了時に行った参加者のプレゼンの様子を深沢氏が真似をして熱演。研修開始時のプレゼンは、売上などの数字が羅列された細かい表を使用して説明するプレゼンでしたが、研修終了時のプレゼンは、マネージャーが数字を分析して導いたポイントだけをスタッフに示し、今後店舗の販売で何をすべきかを一言で端的に伝える内容へ大きく変わりました。数学的に物事を捉えること、そこから導いた結論を相手が受け取りやすい形で伝えること、深沢氏はこれを「数会話」と表現しています。簡単なようで意外に難しく、企業等で働かされている保護者の方々にも胸を打つ内容だったようです。本学のキャリア支援講座である「基礎力養成講座」の講師もつとめる深沢氏は、「10年後の自分は誰にも想像できない。であるならば、就活のためではなくて今後

の人生に役立てる視点で、講座に取り組んで欲しいと学生に伝えている。」と話しました。数学的に考えて伝えるスキルは、就活だけではなく人生の長きに渡って有益になるはず。このスキルを磨くことは容易ではないかもしれませんが、まずは日常会話で「数学的に」を意識づけることから始めて、徐々に習慣化できるようにトレーニングしてみたいかがでしょうか? **ご参加いただいた保護者の感想**
講演会の内容がすばらしかった。数学的な考えを持つ意味がわかり、親も含めこれらにならんと感じた。
講演会の内容は大変有意義だった。学生時代にこのような授業を受けられれば、視野が広がり自分の中の能力も目覚める人もいるだろうと思った。
就職講演会にて、考える力・伝える力の数学的な方法が、具体的でももしろかった。娘も1年時に先生の授業を受けて、おもしろいと言っていた意味がわかった。
保護者向けの講演は自身の仕事にも役に立つ内容でもとてもおもしろかった。勉強になった、子どもにも聞かせたかった。
数学的会話、今まで考えたことのない定義だったので大変興味深かった。

大学で絶対に行きたかった留学、 遂げた成長をキープし



人文学部英語コミュニケーション学科4年
荒木里奈さん

東京家政大学を選んだワケは？

高校が女子校で、その居心地の良さから大学も女子大に入りたいたと思っていました。「Intensive English」という少人数制の授業が週4日も開講されている点に最も惹かれ、本学への受験を決めました。また、都心の大学はビル建物の多い環境も多量で、緑豊かで広々としたキャンパスも気に入りました。

英語コミュニケーション学科に 入学したワケは？

ターニングポイントは、高校1年生の春休み。所属していた合唱部で行ったヨーロッパへのコンサート遠征で初めて外国の方と英語を通じて意思疎通できたことが嬉しくて、英語や外国の文化に興味を持ち始め、大学でも英語の道に進もうと決めました。

<荒木さんの英語力アップ法を教えてください！>

映画鑑賞やアルバイト、色々な場面で英語を取り入れてみる

映画を観ることが好きで、英語の音声と字幕で観ています。一日2〜3本観ることもあります。単純に英語を浴びる時間も増えますし、映画の台詞で出てきた表現を覚えておいて、大学の先生との会話で実際に使ってみて、自分のものにするようにしています。

留学中にできた友達とも英語でLINEしたり、東京駅のお土産屋さんでアルバイトをしているのですが、困っていろいろな外国人は積極的に話しかけていたりしています。勉強というと疲れてしましますが、日常生活の中で英語を取り入れて、楽しむようにしています。

<卒業後にしたいことを教えてください！>

フランス、ハワイ、ニュージーランド…、海外旅行に行きたい!

海外旅行をたくさんしたいです。「ベルサイユのばら」が好きなので、特にフランスのベルサイユ宮殿は一度行ってみたいですね。フラダンスサークルに入っていたのでハワイにも行ってみたいし、留学先のニュージーランドにも里帰りしたい!



<後輩へのメッセージをお願いします！>

自分のリミッターを掛けない、
やってみた過程で得るものがきっとあるはず

少しでも興味を持ったことは、やってみると良いと思います。それが結果として何に繋がるのかわからなくても、やってみた過程で、わたしはやっぱりこれが好きだなとか、これが向いていそうとか、得るものがきっとあるはずなんです。そして、いきなり高いハードルに挑戦しなくても良いと思います。例えば、英語に興味を持ったら、いきなり留学するのではなく、まずはキャンパス英会話など学内で受けられる講座を利用して、徐々にステップアップしながらコツコツ積み上げることで十分成長に繋がると思います。自分で自分のリミッターを掛けない、まずはフットワーク軽く行動してみてください。

実現させるために積み重ねた努力と 向上させる工夫

留学プログラムの学内選考対策、授業とTOEFL®の勉強に注力!

1年生

2年生で留学したいと考えていたので、留学プログラムの学内選考突破に向けての対策に注力しました。学内選考には、大学の成績 / TOEFL® のスコア / 英語面接が必要でした。特に「Intensive English」の授業には真剣に取り組み、TOEFL® の勉強はテキストを購入して家で勉強しました。夏休みにはグローバル教育センターが実施している「箱根グリーンセミナー」(4日間の英語集中・異文化研修)にも参加しました。

1年生と2年生で同じ時期に受けた TOEIC のテストでは、220点ほど点数がアップして、努力の成果が実り、とても嬉しかったのを覚えています。

念願の海外留学! 行き先のニュージーランドは、偶然の出会い…!?

2年生

2年生の後期にずっと行きたかった留学が実現しました。留学先はニュージーランドのマッセイ大学。当初はイギリスやアメリカを留学先に考えていたのですが、たまたま友達に誘われて学内のニュージーランド留学説明会に参加。その場でマッセイ大学の方と話す機会に恵まれ、フィリングが合うなと感じて、ニュージーランドに決めました。

現地では、大学内にある語学学校に通い、他国からの留学生と一緒に学びました。放課後は現地の日本語を学びたい方との「Language Exchange」に参加したり、長期休みには旅行に出かけたり、充実した色濃い日々を送ることができました。

大学の留学プログラムは卒業期が延びることもありませんし、トラブルがあってもグローバル教育センターの方が助けてくれるという安心感がありました。



留学で得た英語力を 落としたいくない…! 留学生のバディーとして サポートする側に。

3年生

留学から帰国するとすぐに3年生が始まりました。留学で向上させた英語力を落としたいくなかったため、TKU サマープログラム(海外協定校より留学生を受け入れる制度)でニュージーランドからの留学生のバディーになりました。二週間でしたが、放課後にカラオケに行ったり風鈴作り体験をしたり、自分の留学経験も生かしながらサポートするように心がけました。

インターンシップで味わった緊張感、 プロの仕事ぶりを見てモチベーションもアップ!

夏休みには株式会社 JTB 埼玉支店で5日間のインターンシップに参加しました。いつもは和気あいあいとした雰囲気でしたが、時にはピリッと厳しいシーンも目の当たりにして、社会人と学生の違いを肌で感じました。最終日には自分で考えた旅行企画をプレゼンする時間があり、旅行業界で働くプロを相手にして、とても緊張しました。

全日空の地上職インターンにも参加し、慌ただしい状況でもチームプレーで乗り切り常に笑顔を保つ接客など、プロの仕事ぶりに惚れ惚れして、カッコイイ!と素直に感動しました。

インターンの良いところは、企業説明会ではわからない会社の雰囲気が生でわかること。就活に対するモチベーションもより一層上がりました。

誰がネイティブスピーカーなのか? その定義の違いからくる社会問題を卒論で

4年生

卒論は、「ネイティブスピーカリズム」をテーマに執筆する予定です。誰がネイティブスピーカーなのか?という定義や解釈の違いから偏見や差別が生まれ、例えば、英会話スクールの講師採用では、名前がアラブ系だったり顔がアジア系だったりすると、採用されにくいといったこともあるそうです。近年は英語の多様なバリエーションを意味する「World Englishes」という考え方も広まっていて、この辺りを卒論で掘り下げて論じる予定です。

航空会社の地上職に内定、 今後は英語以外の言語にも チャレンジしたい!

就職活動を経て、憧れだった航空会社の地上職に内定しました。今後は、英語以外の言語にもチャレンジしたいです。旅行業界のインターン中に、英語以外に他の言語もできた方が良いよとアドバイスをいただき、中国語か韓国語を勉強したいなと思っています。

大学卒業後の女性の持続可能な働き方(ライフプラン)として、農業生産者との関わりやグローバルな視点から多様な農業の可能性を考える。

農業が自分の人生を豊かに幸せに彩る可能性に気づく

1. 個人レベル

農業は人間の生活の営みであり、衣食住の専門をもつ東京家政大学の学びと結びつく要素が多様にあるため、さまざまな社会問題を解決する鍵となり得る。農業を通じた「健康」「やりがい」「持続可能な働き方」とインクルーシブ社会を創造する。

コミュニティビジネスとしての農業の可能性を知る

2. 社会人レベル

ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト 4大目的

3. 研究レベル

本プロジェクトの研究効果測定を実施する

大学在学中に、農業の魅力や可能性について学ぶ機会を得た本学学生が、卒業後どのように農業とつながっていくかについて、その意識と就労について追跡調査(約20年後までを想定)を実施する。

4. 大学独自の取り組みとして

大学の特色ある取り組みとして広報に役立てる

本学の学び(生活の基本を学ぶ専門性:児童、保育、栄養、服飾、環境、造形、英語、心理、福祉、看護、リハビリ)を、どのように生産、農業の現場で活かせるかについて、具体的な提案と共に、生活のイメージにまで発展させる。学生の発想・提案を生産、商品化する。

<プロジェクトに参加した学生の声>

緑苑祭×農業女子PJ
ブルーベリー収穫体験

練馬区にあるブルーベリー農園にお邪魔し、学園祭で出展するカフェで使うブルーベリーを実際に摘み取らせていただきました。実際に使う食材を目で見て確かめ、生産者の方と直接お話することで、ひとつひとつの食材の命の重み、生産者の思いを近くで感じることができ、普段味わえない貴重な体験をすることができました。



2018年8月16日(木)練馬白石農園でのブルーベリー収穫体験
家政学部栄養学科栄養学専攻2年

その他の活動

- 2018年10月12日(金) あきる野市におけるフィールドワーク、意見交換会
- 長南町の特産品を使った麺づくり企画(2019年10月商品化予定)
- 狭山の特産品を使ったレシピ開発



東京家政大学ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト



東京家政大学 ヒューマンライフ支援センター 専門員 准教授 内野 美恵

*農業女子プロジェクト…<https://nougyoujoshi.maff.go.jp/>

女性ならではの農業のあり方を模索

大学卒業後の就職選択の一つとして農業を考える「ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト」を2017年にスタートさせました。仕事をしながら結婚、妊娠、出産、子育てをしながらこなす女性のロールモデルとして、農家の嫁に着目しつつも、「嫁」ではなく、起業家や従事者としてのビジネス形態と女性ならではの農業のあり方を模索していきます。

農林水産省「農業女子プロジェクト」パートナー校に本学が選出

本取組は農林水産省から高く評価され、同省が推進する女性農業者の能力を社会に活かし、新規参入の若手女性の就農者を拡大させることを目的とした「農業女子プロジェクト」のパートナー校に本学が選出されました。農業をビジネス形態と捉え、女性ならではの新しい発想で事業を企画しています。

ホワイトカラーの就職困難者は増加の予想

東京家政大学は「女性の自主自律」を建学の精神とし、7000人を超える女子学生が日々学んでいます。政府が推進する一億総活躍社会とは、女性も経済の担い手として自立し、就労することが当たり前の社会像を示唆しています。結婚、出産、育児、介護というライフイベントをしながらこなしつつ就労することが求められる現代女性

性において、男性の理解はもちろん、働き方改革による長時間労働体質の改善や、保育・介護施設の整備、長期休暇制度の設置など持続可能な働き方ができる環境整備は重要な課題です。また、企業でのホワイトカラーの職種は、Aの参入により今後減少することが現実化してきているのに対し、少子化でも大学進学者は増えています。大学卒業後の就職選択がホワイトカラーに限定されやすい現状では、農業生産者の後継者不足は助長される一方で、ホワイトカラーの就職困難者が増加することは容易に予想できます。

農業を女性の視点から「コミュニティビジネス」として創造

日本では伝統的に、出産、育児、介護等のライフイベントをフレキシブルにこなす就労女性の代表として「農家の嫁」の存在が挙げられます。「嫁」という主体性が制限される既存イメージを払拭してみると、彼女たちは、家業(経済)を担いつつ、自分の時間と労力を自己決定により活用することで、出産、育児、介護を裏に上手に両立させているワークライフバランスのロールモデルといえます。

インターネットが発達し農業のあり方も多様化してきています。食と農と社会のつながりの中で、大学卒の女性が学びを活かして働く場として、嫁ではない農業という選択肢が見逃されていく現状は、女性の持続可能な働きやすい就労先としての可能性を狭めていることになりません。また、農業を女性の視点から「コミュニティビジネス」として創造することで、子供の貧困や中高年の健康、高齢者の孤独といった社会問題についても解決策を講じられる可

能力があります。

農業が自分の人生を豊かに幸せに彩る可能性

そろそろ具体的に大学卒の女性の就労先として、嫁ではない農業女子の働き方について、農業が自分の人生を豊かに彩る可能性に気づき、考える時期にきていると思います。とはいえ、大学卒業後すぐに農業を考えるとイメージできないという人も多いと思います。新卒で何年か企業や組織で働いた後に、タイミングを見計らって新規就農や農業法人への転職という方法もあります。人生100年時代ですから、やりたいことへのスタートを何回も設定できると、学び直しもできます。

まずは、「ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト」の活動に参加して、農業が自分の人生を豊かに幸せに彩る可能性に気づくところから始めてみませんか？



2018年6月27日(水) 農林水産省経営局就農・女性課女性活躍推進室 久保香代子様による講演会

附属中学校・高等学校

高校 高校2年「ふれあいと学びの旅～修学旅行」にむけて

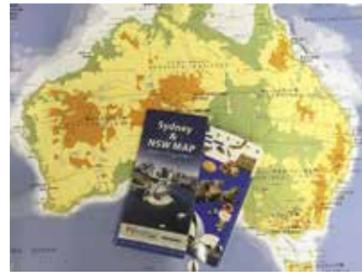
9月3日より5泊6日の「ふれあいと学びの旅」として、オーストラリアへいきます。オーストラリアのシドニーへのふれ旅は、今年度が初めてとなります。その準備として、1年次には English Camp という2泊3日の宿泊行事も行い、英語漬けの時間を過ごしました。

今回のふれ旅には、大きく3つの企画があります。一つ目は、ファームステイです。複数名のグループにわかれ、ホストファミリーと生活を共にしながら異文化体験をします。二つ目は、Eクラスによる学校交流です。現地の女子校を訪問し、同世代の女生徒とコミュニケーションをとります。三つ目は、班別自主研修です。5、6名のグループごとに現地の女子大学生

が1人同行し、目的地への行き方やシドニーのおすすめの場所を聞きながら楽しい一日を過ごします。

観光にとどまらない海外「ふれあいと学びの旅」は、高校生にとって大きな成長の機会となります。安全で実り多いふれ旅となるよう、準備を進めていきたいと思えます。

(高校2学年主任 高橋博昭)



高校 夏休み「スタートダッシュ勉強合宿」(7月29日～8月2日)

夏休み「スタートダッシュ合宿」は、夏休みに入って間もない7月の下旬から4泊5日で行う高校3年生対象の勉強合宿です。「入試の天王山」といわれる夏休みに狭山キャンパスの講義室を借りて、勉強漬けの5日間を過ごします。夏休み中の勉強のペースを確立し、志望校合格に向けた受験勉強の本格的なスタートを切ります。ここでの頑張り大きな力となって、志望校合格につながります。



集中して勉強(大学講義室)

「狭山αキャンプ(勉強合宿)」(8月19日～23日)

狭山αキャンプは、高校の希望者を対象とした学習合宿です。自主勉強と講習や個別の質問指導によって、基礎学力の充実を図り、勉強方法の再点検をします。また、卒業生の大学生チューターが、自習時間の学習サポートや受験勉強のアドバイスをしてくれます。狭山キャンパスの講義室やゼミ室、セミナーハウスで、2学期に向けて勉強中心の夏休み最後の充実した時間を過ごします。(進路指導部)

中高 海外語学研修



セブ島語学研修での終了証授与式にて

毎年附属中高では、夏休みを利用した語学研修を行っています。プログラムには3つのタイプがあります。

1つ目は「セブ島英語集中合宿プログラム4週間コース」です。昨年度より始まったプログラムで、4週間マンツーマンレッスンとグループレッスンを受けられる英語力強化に特化した研修です。今年度は高校生12名が参加する予定です。

2つ目は「オーストラリア中学・高校体験入学」です。このプログラムはブリスベン近郊(トゥーン

バ)の家庭に10日間ホームステイをしながら、現地の学校に体験入学をするプログラムです。外国の生活を体験することを通して、現地の文化を学びます。今年度は中学生5名、高校生8名が参加します。

3つ目は「カナダ語学研修プログラム」です。ビクトリア大学寮に宿泊しながら、語学研修プログラムを受講したり、現地の学生と共に様々なアクティビティに参加したりします。今年度は残念ながら希望者が少なく、実施見送りとなりました。(国際部)

中学 中学校で道徳科授業が始まりました

4月から東京家政大学附属女子中学校においても、道徳科の教科書を用いた「特別の教科 道徳」の授業が始まりました。1945年以来初めての検定教科書8種類の中から、本校では光村図書「きみがいちばん光るとき」を採用しました。

各学年の担任と副担任が協力して授業を進めています。学年所属の教諭が1本の教材を研究し、3クラスを指導する方法をとっています。教員の教材研究が深まり、授業での生徒の様子を把握しやすいなど、長所が多くあります。

また、今回の教科化で、話題になったことの一つ「評価」については、数値による評価は行わないのはもちろんのこと、「道徳性」の評価ではなく「学習状況」を評価することになっています。本校では、ポートフォリオ評価を活用しています。

道徳的価値に関する学習への取組みを評価するために、ワークシートの記述や発言の記録とともに、ポートフォリオを用いた自己評価がとても重要になります。

昨年度途中から道徳授業を実施・参観したり、研修会を行ったりして4月の授業開始となりました。道徳科授業のスキルアップのために、今後も先生方とともに研修を行いたいと考えています。

生徒が様々な問題に直面した時、主体的に道徳的価値に基づいた判断ができる能力を養い、集団や社会において、人間としてよりよく生きる力を身に付けるために、教師も生徒も共に語り合う道徳科の時間を大切に指導していきたいと考えています。(副校長 賞雅枝子)

中学 中1学習オリエンテーションを行いました

中学1年生は、4月19日(金)、20日(土)の1泊2日で学習オリエンテーションを実施いたしました。中学に入学したばかりの生徒たちが、お互いをよく知り、信頼しあいながら学校生活を送ることができるよう、様々な活動を行いました。その中で、集団生活に必要な約束事や、中学生としての学習に取り組む姿勢についても学びました。学習面では、積極的に知識を習得し、学習習慣の定着を図ることの大切さを知る大切な機会となりました。2日目にはネイチャーハイキングを行い、富士山麓の大自然に触れ、自然の大切さについても深く考えることができました。

生徒の感想としては、「国語と数学の苦手な部分があったので、そこを中心に勉強していきたいと思った。」「普段できないことを体験し、自然について学べてよかった。」「みんなで協力できてよかった。」というものが多く見られました。これからの学校生活に繋げていきたいと考えています。

(中学1学年主任 松原寛子)



合宿での講演会の様子



集合写真

中学 『外へ』

中学3年 シンガポールへ「ふれあいと学びの旅」

英語が通じる喜び。それは誰もが抱いたことのある気持ちでしょう。自分が学んだことを、生きた力として実生活で活用する。校内での努力の成果が、校外で発揮できる。これは学校教育の目標の一つでもあります。シンガポールへの「ふれあいと学びの旅」は、まさに「内から外へ」飛び出す行事です。

今校内では、9月のふれ旅に向けて、あらゆる場面で事前学習を行っています。生徒たちは、2年次の English Camp や日々

の学校生活の中で、英語を使う楽しさ、ルールやマナーを守ることや、仲間と協力することの大切さを学んできました。それらを活かして、中学3年の「ふれあいと学びの旅」は、社会や世界へと視野の広がりが得られるような経験にしていきたいと考えています。

帰国後の生徒たちの成長を楽しみにしててください。

(中学3学年主任 芥絵奈)



旅行委員の様子



ふれ旅事前学習

秋の特別企画展

「絹と木綿」のみどころ

① 服は何からできている？

絹は昆虫のカイコの繭（まゆ）から、木綿は植物のワタから作られます。自然由来の繊維が糸になり、布になり、服になる過程を、「触れる展示」などを通して紹介します。普段何気なく着ている服がどのように作られているか、ちょっと考えてみませんか。

③ 商品としての絹と木綿

現在、自動車や電化製品がメイドインジャパンとして世界中で使われているように、絹や木綿が主要な輸出品だった時代がありました。特に、明治時代以降の日本の近代化を支えた絹産業について取り上げ、社会の中の繊維や衣服の役割について見ていきます。

② 絹と木綿を比べてみれば

絹と木綿を比べることで、それぞれの素材の特徴や、日本人の衣生活に定着していった歴史が見えやすくなります。例えば、今もある「絹は高級品、木綿は普段着」というイメージはどのように生まれたのか？その理由を探ります。

特別企画展

「絹と木綿」

2019年
10/17(木) ~ 11/21(木)

*10月27日(日)は学園祭のため開館
休館日:日曜・祝日、10月28日(月)

開館時間:9時30分~17時

会場:板橋キャンパス 百周年記念館5階展示室

一般公開 入館無料

※最新情報は博物館ホームページで公開しています。

※ご来館の際は、守衛室(正門・十条門・板橋門)で「博物館入館証」をお受け取りください。

〈秋の特別企画展-おもな展示品〉



(右): 紅綸子地立涌菊牡丹模様打掛(絹) / 江戸時代後期
(左・上段): プラウス(絹) / イギリス 1900-1905年頃

(中央): 垣根に菊模様浴衣(木綿) / 昭和時代
(左・下段): 仕事着(木綿) / 大正~昭和時代

春の企画展

「包むー風呂敷からドレスまでー」の報告

「包む」をキーワードに、「物」を包むための風呂敷や包装紙、「身体」を包むための民族衣装やドレスなどを展示しました。

来館者アンケートには、「多種多様な展示品から、包むことの多面性がわかり興味深かった」、「中ものを大切にしたい、大切であることを示したい」という包むことの意味がよく伝わってきた」といった感想が寄せられました。関連イベントとして、「ワークショップ」折形を折ってみよう や着装体験、ギャラリートークを開催し、多くの方にご参加いただきました。



「身体を包むー平面を纏う」コーナー



「物を包む」コーナー



着装体験「カンガを着てみよう」



「身体を包むー記号性と機能性」コーナー

スタンプを集めて博物館オリジナルグッズをもらおう!

【スタンプラリー参加方法】

① スタンプカードをもらおう!

企画展受付や常設展でスタンプカードを配布しています。
(企画展開催期間中は食堂などにも置いてあります。)
参加費無料!一般の方、学生、教職員どなたでもご参加いただけます。

② スタンプを集めよう!

スタンプは、『常設展』『企画展』『特別企画展』『博物館講座』でそれぞれ1つ押印します。4つ集めてください。
スタンプカードの有効期限はありません。

③ オリジナルグッズと交換しよう!

スタンプが4つ集まったら、
博物館オリジナルグッズをプレゼント!
5階博物館事務室にスタンプカードをお持ちください。



ステーションナリーセット

手ぬぐい・一筆箋・チケッケースが入ったオリジナルセット。

トートバッグ

博物館コレクションがデザインされた便利なトートバッグ。

東京家政大学博物館では、毎年春と秋に企画展を開催しています。今年度の企画展は、「包むー風呂敷からドレスまで」(5月16日~6月19日)と「絹と木綿」(10月17日~11月21日)です。ここでは、春の企画展の報告と、これから開催する秋の企画展のみどころを紹介いたします。

東京家政大学の入試は 大学4年間の「成長」を重視!

2020年入試改革(2021年度入試より実施)で、大学入試の仕組みは大きく変わります。
従来の「学んだことを理解する力」「習得した知識」を評価する入試から、
「学力の3要素」を評価する入試へ。
今回の入試改革にあたって、東京家政大学の新しい入試のポイントを紹介します。



2020年入試改革で、 東京家政大学の入試はどう変わる?

2020年入試改革で評価のポイントとなるのは、学力の3要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢」。これらの能力を評価するために、各大学が入試制度の改革に取り組んでいます。今回の入試改革にあたって、東京家政大学が特に力を入れているのが推薦入試の改革。学習意欲が高く、東京家政大学の理念を深く理解し、受験している推薦入試合格者の「成長」を支えるために、教育のプロセスとしての新入試制度の導入を進めています。これまで知識や一般常識を問う問題が多かった推薦入試の学力調査も、今回の入試改革では「学力の3要素」を測るための考える問題を出題する予定です。入試は「合格」がゴールになりがちですが、大学4年間の学びのスタートラインでもあります。選抜のための入試ではなく、成長のための入試へ。東京家政大学は全国の大学に先駆けて、新たな推薦入試のあり方を提示します。

▶2020年度入試より実施 基礎学力調査と入学前準備教育を一体化

グローバル入試

POINT 入試を成長のプロセスとして位置付ける、2020年度入試から実施する新入試制度です。
「チャレンジ方式(仮称)」と、「スタンダード方式(仮称)」の2方式で行い、それぞれ書類審査、基礎学力調査、面接の配点と出願要件が異なります。

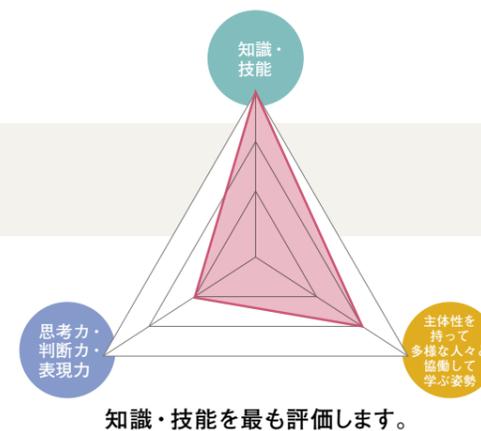
選抜方法	評価項目(学力要素)	評価割合(配点)
書類審査 (自己申告書・調査書等)	●「知識・技能」	20点 (評定平均値を4倍して使用)
	●「思考力・判断力・表現力」 ●「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 ●課外活動等実績 *学科のアドミッションポリシーに基づき評価	方式共通:30点
基礎学力調査*	●「知識・技能」	チャレンジ方式:100点 スタンダード方式:50点
面接	●「思考力・判断力・表現力」 ●「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」	チャレンジ方式:書類内容を確認 スタンダード方式:50点

*基礎学力調査(高1レベル)は、国数英合わせて60分間です。

1 チャレンジ方式(仮称)

対象学科 | 児童学科、児童教育学科、栄養学科、
心理カウンセリング学科、教育福祉学科、看護学科

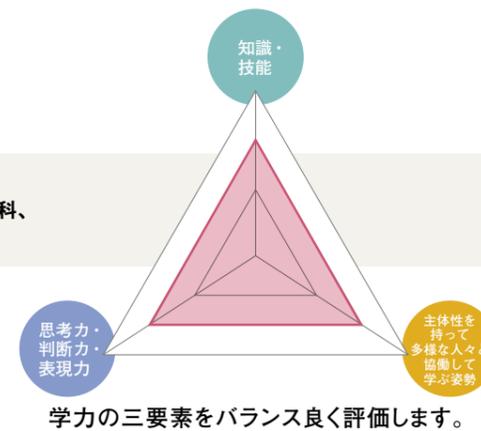
- 書類審査(50点)と基礎学力調査(100点)の合計150点満点十面接で評価する。
※面接で書類内容を確認する。
- 面接は原則、集団面接とする。
- 出願要件は全体の評定平均値が3.3以上。
※基礎学力調査の成績は入学前準備教育のコース分けにも使用する。



2 スタンダード方式(仮称)

対象学科 | 服飾美術学科、環境教育学科、造形表現学科、
英語コミュニケーション学科、リハビリテーション学科、
子ども支援学科、保育科、栄養科

- 書類審査(50点)と基礎学力調査(50点)、面接(50点)の150点満点評価する。
- 面接は原則、個人面接とする。
- 出願要件は、全体の評定平均値が3.5以上。
※基礎学力調査の成績は入学前準備教育のコース分けにも使用する。



(お問い合わせ先)東京家政大学 アドミッションセンター TEL 03-3961-5228

(株)おまちどうと学生がコラボした「低糖質弁当」を学内で販売 当初のプレゼンではダメ出しも… その先にあったのは 大きな達成感!

2018年度の商品開発プロジェクトとして、(株)おまちどうと栄養学科・栄養科の学生がコラボし、4種類の「低糖質弁当」ができあがりました。(株)おまちどう各店舗や都内コンビニなどで販売し、2017年度を超える販売実績を誇りました。2019年4月・5月には板橋キャンパス内でも販売され、2019年4月22日(月)～26日(金)はA班の「砂糖不使用カレーバーグと鶏照り弁当」とC班の「ノンフライチキンカツ弁当」、5月7日(火)～10日(金)はB班の「美活サポート弁当」とD班の「食物繊維たっぷり弁当」が販売されました。

今回は、B班の「美活サポート弁当」を取材。リーダーを務めた吉原日奈子さん(家政学部栄養学科栄養学専攻3年)によると、5人のメンバーで弁当の企画から担当したそうで、企画段階当初のプレゼンではダメ出しも多く、自分たちの企画の甘さを痛感し、一度リセットしてコンセプトから練り直すことになりました。

そこで、販売先リストにあった浜離宮三井ビルへ市場調査に繰り出し、ターゲット層である女性のニーズをリサーチ。女性の健康や美容への関心の高さに焦点を当て、「美活サポート」のコンセプトを固めて、おかずの内容を検討、レシピ作成へと進みました。「沢山売れるにはどうしたら良いかを考えるのに商品の内容はもちろんのこと、コストや手間などトータルで考えなければならず、商品開発の難しさを実感しました。」という吉原さん。

この「美活サポート弁当」はカロリーを512kcalに抑え、(株)おまちどうの売り上げでも上位にランクインするなど、好評です。吉原さんは商品開発プロジェクト全体を振り返り、「何もないゼロの状態から企画することが一番難しく、様々な苦難を乗り越えて完成したお弁当には人一倍の愛着があります。大きな達成感を得ることができました。」と笑顔で語ってくれました。今後の商品開発プロジェクトにも要注目です!



板橋キャンパス120周年記念館1階で販売



美活サポート弁当 税込530円

「美活サポート弁当」の気になる中身とポイントは…?

- ❖ 十五穀米:血糖値の上昇を緩やかに
- ❖ 鶏団子の黒酢あんかけ:
豆腐でふわふわ、黒酢で美肌効果
- ❖ キッシュ風オムレツ:
満足度抜群、ほうれん草でヘルシーに
- ❖ ブロッコリーのピーナッツ和え:
ピーナッツでLet's美活
- ❖ 豆もやしの梅肉和え:
ヘルシーでシャキシャキ食感
- ❖ ひじき煮:腸もお肌も健康に

☆記事掲載希望の方へ

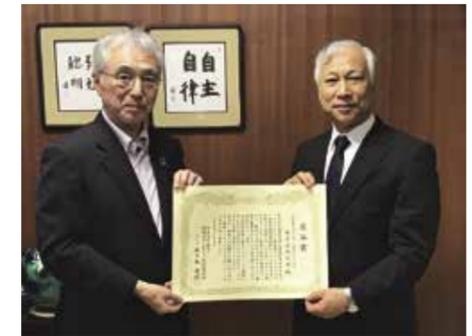
「Tokyo Kasei Press 広報誌なでしこ」へ各種募集・告知・報告等の記事を掲載希望の方は、学園運営室まで原稿等を郵送ください。次号は10月発行の予定です。よろしくお願いたします。

<お問い合わせ先>学園運営室(担当:川島) メール:kawashima-n@tokyo-kasei.ac.jp

NPO法人環境カウンセラー全国連合会より「炭谷賞」を受賞 環境問題解決のための人材育成が評価

環境教育学科を通じた環境人材の育成への取り組みについて、NPO法人環境カウンセラー全国連合会より、本学が「炭谷賞」を受賞しました。

環境カウンセラー全国連合会は、自然と人間が豊かに共生し、持続ある発展を目指す社会の構築を目的に、全国の環境カウンセラーを中心とした団体を連合し、環境保全思想の普及啓発および環境保全活動を行っています。



この度、「環境教育インストラクター登録申請資格取得セミナー」の開催や、環境カウンセラー制度の周知、人材育成への取り組みが評価され「炭谷賞」を受賞しました。

6月19日(水)板橋キャンパスにて授賞式が行われ、環境カウンセラー全国連合会から、佐々木進市理事長、村上和雄理事、一條美智子理事、東京城北環境カウンセラー協議会古里明瑠理事長が出席。本学からは、山本和入学長、手嶋尚人家政学部長、藤森文啓環境教育学科長、井上宮雄准教授が出席しました。



東京家政大学の栄誉を担い、活躍する卒業生を表彰

5月9日(木) 渡邊辰五郎賞贈賞式&記念講演会

学園創立130周年を記念し創設した第8回「渡邊辰五郎賞」「渡邊辰五郎奨励賞」は以下の方への贈賞が決定し、5月9日(木)、板橋キャンパスにて贈賞式、受賞者による記念講演会が行われました。



<渡邊辰五郎賞>



奥山 眞壽美(おくやま ますみ) 千葉県立松戸向陽高等学校 校長
昭和58年 東京家政大学家政学部 栄養学科 栄養学専攻理科コース 卒業
受賞理由:私立高校・公立高校で家庭科の教員として教鞭をとり、さわやか千葉県民プラザ(副主幹)、千葉県こどもと親のサポートセンター(指導主事)を歴任。管理職として、特別支援学校流山高等学園副校長に着任、平成30年度より県内唯一の福祉科設置校である県立松戸向陽高等学校校長に着任。また、本学の「自立の探求」における特別講師として、数年にわたり学生を支援。

<渡邊辰五郎奨励賞>



小野 朋美(おの ともみ) 味の素株式会社
平成7年 東京家政大学短期大学部 栄養科 卒業
受賞理由:1995年(平成7年)味の素株式会社に入社、生産、開発、営業支援の幅広い分野を経験。また、食を通じた国際交流や他国支援、子供の教育等に強い関心を持つ。直近のボランティア活動は、「グローバルフェスタ」、小学校の出前授業「味覚教室」、東北復興支援「健康・栄養セミナー」、カンボジアの小学校設立の視察同行に参加しており、栄養学で学んだ経験や喜びを社会貢献に繋げている。



佐々木 たかね(ささき たかね) カゴメ株式会社
平成7年 東京家政大学短期大学部 栄養科 卒業
受賞理由:1995年(平成7年)カゴメ株式会社に入社、メニュー開発や新商品企画に携わり、2017年には管理職に就き管理栄養士の新しいキャリアを築く。(管理職の女性比率は約5%(2019年4月現在))同社が、日本人の野菜不足ゼロを目指す中で、野菜をどう効率的に、美味しく、楽しく摂取できるか、生活者に寄り添ったメニューを数多く開発し、あらゆる業態を通じて提案することで、企業における管理栄養士の業務を社会貢献に繋げている。

Tokyo Kasei Press Vol.81 学校法人渡辺学園 広報誌なでしこ 2019年7月発行

Tokyo Kasei Press 広報誌 なでしこ

創設時の校章に「愛を意味し、母性愛と教育愛を象徴している」撫子(なでしこ)の花が形どられています。“平成”から“令和”の時代となった本年発行の Tokyo Kasei Press を A4 サイズでの広報誌にリニューアルし「なでしこ」の通称名を付けました。これからの時代を“しなやかに凛と生きる”女性として社会で活躍できるよう、願いを込めて多くの情報を発信していきます。

- 学園運営室
門脇亜希子
川島 直子
坂本 理恵
嶋田花亜菜
- 広報・広告推進提言グループ

- 発行人
菅谷 定彦 (学校法人渡辺学園 理事長)
- 編集責任者
岩井 絹江 (学園運営室 室長)
- 編集・発行

学校法人 渡辺学園 学園運営室
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
電話：03-3961-5690

- 制作・印刷
株式会社弘文社
- 表紙デザイン
坂本 理恵
- 東京家政大学ホームページ



■板橋キャンパス 季節の風景



アジサイ アンズ バラ

次号(2019年10月)は、秋の学園祭、学生・生徒の活動について特集する予定です。掲載希望の記事がありましたら、学園運営室にご連絡ください。

学園運営室がある百周年記念館の3階からは附属中高の教室が見える。彼女たちの年代だった頃、何を夢見ていただろうか。

いくつになっても、想像よりも自分は幼く感じられ、あの頃に思い描いていた大人の女性とは程遠くてガッカリするのだけど、そのギャップすら、こんなもんだなと素直に受け止め、面白く笑えるのも成長の証かもしれないと、無理やり自分を肯定してみる。とはいえ、想像よりも自分はしっかり者ですという人を聞いたことがないから、みんな大人を演じる少女少女なのかもしれない。

本号は学生を多く取り上げ、若いエネルギー溢れる誌面を心掛けました。取材や原稿提供のご協力をいただきました皆様、誠にありがとうございました。(N.K)

6月の満月は「ストロベリームーン」。ネイティブアメリカンが季節の目安として満月に名前を付けていたそう。6月は苺が旬な時期のためこの名称となったとのこと。

ストロベリームーンと聞いただけでロマンチックな気持ちになるのは言葉の持つ力なのだろうか。紙面を作成する時も言葉や文字の持つ魅力を引き出せたらと感じた出来事だった。

リニューアル第2弾です。ご覧になった感想はいかがでしょう。フレッシュな誌面をお届けできるよう、若手が中心となり鋭意奮闘して編集しました。

81号発行にあたり、多忙な中寄稿してくださった皆様に心より感謝申し上げます。(A.K)

本学は「自主自律の精神で生きる女性」を育てて138年目を迎えた。創立者渡邊辰五郎先生の命日である5月26日には学園として墓参をしているが、「明治の時代」に女性が自立できるよう専門職業人を養成することを掲げ、学校を創立された辰五郎先生の見識性と偉大さを感じる。

Tokyo Kasei Press では、自分らしくイキイキと生きる人間をロールモデルとして紹介することを編集方針の一つとしている。冊子へとリニューアルした2号目の本号から、グローバル化の先駆けである菅谷理事長の日本経済新聞社ニューヨーク特派員時代のエピソードを「世界を生きる」と題して、シリーズで依頼した。

本学には、在学生・卒業生の活躍や先生方の研究活動等、多くの方に広く知ってもらいたい人物や事柄が多くあり、もっとページ数が欲しいのが本音でもある。

人生100年時代という長い時間が与えられた現代だからこそ、「目的意識を持った堅実でまじめな女性が多い」と社会から評価されている東京家政大学の学生・生徒には、これらの良さに加えてもう一歩前に踏み出し、自分らしく豊かな人生を過ごして、“夢に向かって凛としなやかに輝き活躍し続けてほしい”と願っている。

貴重なお時間を割いてご協力くださった皆様、ありがとうございました。(K.I)

早稲田大学を卒業後、日本経済新聞の記者になり10年間、取材の第一線で、夜討ち朝駆けの日々。家庭は家内に任せっきりだったが、その成果として、「三菱・クライスラー提携」など国際級スクープを連発し、新聞協会賞の他、日経社長賞を2度受賞した。

日経入社11年目の春、ニューヨーク特派員に任命され、羽田空港で百人近い見送りを受け、サンフランシスコ経由で、世界の経済・文化の中心地で国連本部もあるニューヨークに入った。3年間の特派員生活では、1年目の1971年7月15日、ニクソン米大統領が日本の頭越しに中国訪問を発表。同8月15日、太平洋戦争での日本の敗戦日に金・ドル交換停止、輸入課徴金の導入な



米国を代表する経営者ドナルド・ケンドール ヘブシコ会長とインタビュー(ニューヨーク郊外のヘブシコ本社)1971年5月

理事長コラム “世界を生きる” 学校法人渡辺学園理事長 菅谷定彦 日経ニューヨーク特派員時代① 多発するニュースを全力で報道

員に任命され、羽田空港で百人近い見送りを受け、サンフランシスコ経由で、世界の経済・文化の中心地で国連本部もあるニューヨークに入った。3年間の特派員生活では、1年目の1971年7月15日、ニクソン米大統領が日本の頭越しに中国訪問を発表。同8月15日、太平洋戦争での日本の敗戦日に金・ドル交換停止、輸入課徴金の導入など、当時の日米関係は日本の繊維、テレビ、自動車などがわが国の競争力増強と1ドル1360円の円安効果で、押し寄せる洪水のように対米輸出が増加、ニクソン大統領はじめ米国内政界、経済界が日本に強い不満を持っていたことの表れだった。

同じ7年10月には国連総会で中国の加盟と台湾の追放が決まり、同年12月にはニクソン経済ショックの帰結として開かれたスミソニアン会議で、1ドル1308円への円高が決定した。特派員2年目の1972年6月にはニクソン陣営によるウォーターゲート・スパイ事件、73年は1月にベトナム戦争終結、10月は石油ショックが発生、報道材料には事欠かなかった。

当時の日米関係は日本の繊維、テレビ、自動車などがわが国の競争力増強と1ドル1360円の円安効果で、押し寄せる洪水のように対米輸出が増加、ニクソン大統領はじめ米国内政界、経済界が日本に強い不満を持っていたことの表れだった。

そんな3年間、病氣ひとつせず、仕事に全力投球出来たのは、学生時代テニス選手として鍛え抜いた心身に加え、同僚、友人の友情、そして仕事や三女の妊娠のため8カ月間しかニューヨーク生活が出来なかった妻からの、間断なき手紙の支えが大きかった。

〈理事長 略歴〉

1957.3	甲陽学院高校卒業
1961.3	早稲田大学 第一政治経済学部卒業
1961.4	日本経済新聞社 入社
1971.3	日本経済新聞社 ニューヨーク特派員
1987.3	日本経済新聞社 米州編集総局長(在ニューヨーク)
1990.3	日本経済新聞社 取締役 大阪本社編集局長
1993.3	日本経済新聞社 常務取締役 名古屋支社代表
1998.3	日本経済新聞社 専務取締役 大阪本社代表
2001.6	テレビ東京 代表取締役社長
2007.6	テレビ東京 代表取締役会長
2011.6	テレビ東京 取締役相談役
2017.6	テレビ東京 特別顧問
2016.4	学校法人渡辺学園 理事長

〈1970年代の経済動向〉

1971. 8	米ドルの金との交換性停止(ニクソン・ショック) ▶ 22年間続いた1ドル=360円の固定為替レートの終了
1971.12	「スミソニアン合意」による新レート決定 ▶ 1ドル=308円、通貨再調整によっても世界の貿易不均衡や通貨不安は収まらず、主要通貨は変動相場制へ
1972. 7	田中角栄首相就任と「列島改造ブーム」
1973. 1	主要通貨の変動相場制への移行
1973.10	第4次中東戦争勃発、石油ショック ▶ 石油価格は、数ヶ月のうちに4倍も急騰
1978.12	イラン革命
1979.12	第2次石油ショック

参考:「1970年代以降の日本経済の動向と重要なトピックス」
内閣府 経済社会総合研究所 HP
(http://www.esri.go.jp/jp/tie/je1970s/je1970s.pdf)





高度・急性期医療センター
公立昭和病院 助産師

石川 栞さん
2018年 看護学科卒業

高校3年生の夏に看護師を目指し、助産師や保健師の選択肢に魅力を感じ本学へ

幼い頃から医療系の職業に興味を持ち、人と関わることや生物の勉強が特に好きだったこともあり、高校3年生の夏に看護師の道に進もうと決めました。東京家政大学を選んだ理由は、自宅から近かったこともあり、看護師に加え助産師または保健師の資格も取得することができるからです。初めから助産師を目指すそうと入学した訳ではありませんでしたが、入学後に助産師や保健師の道に興味を持った際に挑戦できる選択肢があることは魅力的でした。

**先生と学生が和気あいあいとした雰囲気
大学で学んだ基本的な知識が大切**

大学生活は、看護学科の1期生ということもあって、先生と学生が和気あいあいとした雰囲気の中で、勉強を頑張っ

**難しいからこそ挑戦してみては？
母に背中を押されて、進んだ助産師の道。
今は必死に経験を積んでいるところです。**

- 出身地: 埼玉県 ● 好きな食べ物: 甘いもの全般、イタリアン
- 休日の過ごし方: ショッピング、食歩歩き
- 座右の銘: 「他人は変えられない。自分は変えられる。」

なのだと感じる場面が多くあります。

**助産師の道は無理だろうとあきらめたことも
難しいからこそ挑戦してみてもっと母の言葉**

わたしが最終的に助産師の道を選んだのは、母のすすめがあったからです。3年次の「母性看護学実習」で実際に助産師の姿を見て格好いいなと感じましたが、母性実習は他の実習と比べて最も難しかったので、自分に助産師の道は無理だろうと諦めていました。そんな時、母から「難しいからこそ挑戦してみては？」と背中を押されました。助産師への挑戦は、初めはあまり乗り気ではありませんでしたが、助産学実習に行き、そこで助産師という職業の魅力に改めて気付かされ、助産師を目指して良かったと心から思いました。

**助産師の仕事は
恐怖感でいっぱいになることも
その分感じる大きなやりがい**

現在は助産師として、入院中の妊婦・褥婦・新生児のケアや、産婦の分娩介助をしています。

助産師という「お産」のイメージが強いと思いますが、実際には分娩介助の他に、産前産後の母子の生活における保健指導（授乳・



沐浴・退院後の生活・食事など）を行うことも多いです。

お産の現場は急性期（症状が急に現れる時期）であり、分娩の進行状況に加えて、お母さんや赤ちゃんが正常を逸脱していないかを常に把握しながら、必要なケアを素早く判断して施すことが求められます。お母さんと赤ちゃんの命を預かっている責任は重く、恐怖感でいっぱいになることもあります。ですが、その分やりがいも感じています。最近、分娩に携わった産婦さんから退院する時に手紙を貰い、「石川さんがいたら、お産を乗り越えられました。」と書いてありました。産婦さんにお礼の言葉をかけて頂いたり、手紙を頂いたりする度に、大きなやりがいを感じます。

**今は必死に経験を積んでいくつもり
一人前になったら次のビジョンを描きたい**

実際に仕事として助産師に従事すると、業務優先になってしまうあまり、大学での実習のように患者さん一人ひとりと長く関わるのが難しくなります。短い関わりの中でも、それぞれの患者さんに寄り添う看護ができるよう、可能な限り相手について深く知ろうと常に心掛けています。出産は女性にとって一生の中でもきっと忘れられない時間になると思いますが、その人生の貴重な瞬間に関われる助産師は、素晴らしい仕事と思っています。大学を卒業し、病院に勤務してまだ2年目、今は必死に経験を積んでいるところです。経験を積んで一人前の助産師として動けるようになったら、自分が今後深めていきたい分野を考え、次のビジョンを描こうと思っています。